

第2回 桑名市就学前施設再編検討委員会会議録

- 1 日 時 平成22年10月26日（火） 午後3時から
- 2 場 所 桑名市役所 5階中会議室
- 3 出席委員 学識経験者2名、自治会連合会2名、民生委員児童委員1名、私立幼稚園2名、私立保育園3名、公立幼稚園2名
公立保育所1名、公立小学校1名、教育部長
- 4 欠席者 保健福祉部長
- 5 出席職員 教育総務課長、学校教育課長、指導課長、同指導主事
同和教育課長、社会福祉事務所長、子ども家庭課長、同主幹
学校・園再編推進室長、同主幹、同研究主事、同主事
- 6 議 事
(1) 公立幼稚園における学級の適正規模と複数年保育について
- 7 傍 聴 人 1名

(教育総務課長) ただいまから、「第2回 桑名市就学前施設再編検討委員会」を開催させていただきます。

—資料の確認—

それでは、委員長さんよろしく願いいたします。

(委員長) みな様こんにちは。

検討委員会を始める前に、1点確認をさせていただきます。

答申案は、この委員会でのご発言を中心にまとめていきます。出されたご意見は全て載るわけではなく、出来るだけ合意を取る形でまとめ、載せていくこととなります。ただ、確実なことは、発言されなかった意見は答申には載りませんので思っていることはどんどんご発言いただきたいと思えます。

また、分からないことは、遠慮なくご質問をいただきますようお願いいた

します。

それでは、議事に入ります。まず、第1回の議事録について確認をしていきたいと思ひます。(了解を得る)

—委員長、議事録に署名—

次に、私の方から、第1回の振り返りをしていきたいと思ひます。

—資料 第1回検討委員会のまとめに沿って確認—

本日は、桑名市の就学前の子どもたちをどんな子に育てるのかを確認し、次に、現状把握、その上で、公立幼稚園の園の規模、学級の人数、複数年保育について具体的に協議していきたいと思ひています。

まずは、事項書の1桑名市のめざす就学前の教育について、事務局お願ひします。

(再編推進室主幹)

—資料 桑名市の就学前教育の理念に沿って説明—

(委員長) 以上が、桑名の就学前の教育の理念ですが、前回指摘のあった特別支援支援については、ここにある緑のまるの幹を取り巻く1つとして位置づけていきたいということでした。この理念そのものについては何かご質問・ご意見ありますでしょうか。

(委員) 理念の前に、十数年前からの検討会等の経緯を是非皆さんに聞いておいていただきたいと思ひます。

就学前施設再編検討委員会が組織される前に就学前保育・教育懇談会という名称で私立幼稚園・保育園代表が招集され会合が3回開かれました。その時に忌憚のない意見を聞かせていただき施策に反映させていただきたいということで私立園の思ひを随分に述べてきました。

私立経営者の意見を聞いてそれをどのようにとらえられましたか。

3回も足を運びましたが今回のこの検討委員会にどのように活かしておられますか。今委員会出席者は内容がわからないのでその経緯を説明してから答えてもらいたいと思ひます。

(指導課長) この懇談会には、教育委員会と福祉部子ども家庭課長も参加いたし

ました。

今回、答申をいただいた後、最終的に行政として実施計画を作っていかなければいけません。実施計画を作成したあとに私学さんのご意見を聞いては遅いので、行政が実施計画を固める前に、ご意見を頂戴する場を設けたというのが、懇談会を開いた意図です。

話題は、預かり保育、複数年保育について等、公立幼稚園が今のままの形態では子どもたちの望ましい保育が出来ませんので、現状の公立幼稚園の数で維持をしていくということは無理ではないかという認識のもとに、私学の皆様にもご意見をいただいたということです。

(委員長) 基本的には、私立さんがお考えになっている今の問題点を聞かせてもらったということになるのでしょうか。

(委員) もう1点、桑名市の就学前施設の適正配置に関する基本構想は教育委員会が作成したと思いますが、その時点で保健福祉部との相談はあったのかどうか、教育からの一方的なものなのか保健福祉部と共同のものなのか関わりについて教えていただきたいと思います。

(指導課長) 懇談会の席上にも、保健福祉部長、教育長両方が同席させていただきましたように、全ての段階で保健福祉部子ども家庭課と教育委員会とで共に協議を進めております。

(委員) 一緒に進めていると認識してよいということですね。

(指導課長) そのとおりです。

(教育部長) 19年答申の検討委員会では、発足当時から、教育と福祉で、部を超えたビジョンで始めましたが、その中で、窓口を1つ作ることになりまして、保健福祉部を中心に、教育委員会から保健福祉部子育て支援課に職員を出向させ、体制を整えた上で、一緒に会を進めていったという状況です。

(委員) 福祉の方の私たちにも、とても興味のあることですが、教育でずっと進められてきたように私は認識していたので、その点を確認させていただきました。

もう1点、十数年前、藤が丘幼稚園が4歳児試行園となった頃、その時に

関わられていた方はいらっしゃいますか。

(教育部長) 私も聞いたことと、残っている文書等を整理したものと、
「幼児教育研究協議会」という名称で、私立さんも入っていただきました。
おそらく平成13年に答申が出ている分だと思います。

(委員) そのころ、協議会という形で協議が持たれ幼保の在り方・意義など十数回にわたり検討されましたが、結局は公立幼稚園の定員割れを何とかしたいということで4歳児まで拡大することが目的でありました。最終的に何箇所にするかということで協議会の終盤に設置園数に関して公立側私立側のいい分の中間をとってその実施個所数を決着した経緯があります。幼保にかかわる協議会という名で時間をかけて討議された保育のことなどに関しては、その後全然活かされず、結局、公立幼稚園の定員増だけが目的だったように思います。

また今回論議されるであろう、3歳児枠の拡大についても、国の施策として、その頃すでに幼稚園は3歳から可となっていました。協議会（今と同じような委員会構成）で時間をかけて種々いろんな話し合いをしましたが、3歳児に関して突っ込んで議論された記憶がありません。それを今さら何をという感じであります。その場が良ければよいという行政の勝手は市民感情からは決して許されないことだと思います。

その時の教育長も福祉部長も今はすでに代わっており、市職員も同じく配置換えになっております。そして、時が経てまた、今回も同じようなことが繰り返されようとしています。長年変わらずにこの仕事に携わっている園長施設長にとっては、前回もそうありますが、公立園の定員割れがひどくなってくるとこのような話が持ちあがってきて、今回もまたかという思いでうんざりです。

その協議会の時に、もうこれ以上私立には迷惑をかけないのでよろしくお願いします、とトップは言っていました。議事録に載っているかどうかは定かではありませんが、そのように聞いた覚えがあります。

トップが言ったことが変わるようであれば、私たち地道にやってきている経営者はたまったものではありません。

記載されてない可能性は大いにありますが、事務局には一度協議会の議事録を確認してもらいたいと思います。

以上の経緯についてどう思われますか。

どこにも園児の受け皿がなければ公立の定員枠の検討もありと思います。

しかし、私立の幼保に受け皿があるにもかかわらず、どうして公立でやらな

ければならないのか、財政難の中、単純に幼児一人当たりの単価を比較してみても、私立の3倍以上の経費がかかる公立に、それほどまで高い税金をかけてやらなければならない理由がどこにあるのか分かりません。

私立には任せられないのか、それとも公立が優れているからなのか疑問です。教えてください。

定員枠定員増を図る場合には、私立の経営者は大変なリスクを負って決断します。公立の場合、今回定員枠や増を図ってまた定員割れに陥った場合、誰が責任を負うのですか。だれか答えられますか。たぶんそのころには、今ここにおられる行政の方は、代わってしまっていると思います。また数年後、公立に定員割れが起こってくると、また違うメンバーがこのような会を設けて、さてどうしようという話が持ち出されてきます。今までの公立の実績から、この先このようになることが目に見えています。

今まで、桑名市の幼児教育の在りかたを協議すると言いながら、主は公立の存命としかうけとめられない内容が多く感じられます。先ほども言ったように、桑名市の財政と乳幼児のことを考えるのであれば、これから先、高い税金をかけて、これ以上公立の定員枠を増やすより、全国的な流れの中から考えても官から民へということ、まず検討すべきであると思います。公立幼稚園・保育所の定員割れ運営は、十分、事業仕分の対象となる事業だと思えます。急な廃止は無理なので、徐々に公立園の統廃合から行っていくべきだと思います。そしてそれにより捻出された費用を、桑名市の全乳幼児数の3分の2を預かる私立園に補助金として回し、より充実した私立の幼稚園・保育園を育てる方向も、桑名市の税金を、有効に使う方法ではありませんか。皆さんはどう思いますか。

少し現状を言いますと、処遇に関して公私の格差がかなりあります。これを機会に私立園に対する理解を深めてもらえればありがたいと思います。

あつてはならないことですが、巷では、この動きを公立職員の職場確保のためではないかとの話も耳にします。今このような状況で執拗なまでに定員枠を拡大しようとするほど、そのようにとらえられても致し方ないと思います。

(委員長) 今のお話の中で、誤解していただきたくないのは、ここの委員会が、公立幼稚園の職員の職を確保するために作られたわけではないということです。結論が決まっているのであれば、このような検討会をすることはないわけで、桑名のこれからの子どもたちのための就学前の教育が、どうあるべきなのかについて、まず、議論をするところから始めていこうというのが、今回の委員会の趣旨だと思います。

公私の役割分担の話等は、次のステップとして進んでいくことになると思います。

せっかく話に出ましたので、委員会からの資料請求ということで、平成13年の答申を次回いただきたいと思います。

なお、公立は誰がリスクをとったのかということですが、このような検討委員会で議論をして答申をします。それを市長が議会に提案をし、議員の皆さんが承諾されれば、理屈の上からは、市民がリスクを取ったとしか言いようがないのではないのでしょうか。だから、このような大掛かりな委員会を開いて、就学前の施設のあり方、教育のあり方というものを、もう1回いちから検討してみようではないかという場が開催されていると私は認識しています。

(委員) 桑名市の乳幼児教育は、私立が3分の2をやっているのですから、是非委員の皆さんが私立のことをもっと理解していただいて、私立をどのようにして育てていくか、私立にどのような援助をしていったらよいかということも併せて議論をしていてもらいたいと思っています。

(委員) 公立幼稚園の人数は減少していますが、ある一定の保護者が、公立幼稚園の保育を希望されているのも確かなことです。

地域の方々がいらっしゃるこのような場で、公・私立、幼稚園・保育所(園)が、共に、これからの桑名市を担っていく子どもたちをどのような子どもに育てていくかということ、考えていくことが本当に大切なことだと思います。

(副委員長) 公立を選ぶ人がおり、私立を選ぶ人がいるという事実はあって、その要因をきちんと把握しないといけないと思います。

(教育部長) 今、いろいろ指摘のあった点は、今回十分考えていかなければいけないと思っております。

平成19年の答申でも、一番大事なのは、子どもたちの育ちと学びであるということでした。子どもたちに、知識だけを注入するのではなくて、後伸びの力、をつけていくことが大事なことであるということで、「根っこを育てる」という言葉が出てきましたし、「みんながつながる」というところでは、何より、私立さんと公立がつながるんだという願いも含めて議論もされてきたと思っております。

そこで、今回、今まで非常に厳しい時代を乗り越えていただいた経営手腕をお持ちの私立さんから、アドバイスをいただけるのではないかと思います。

ります。行政としてどのように考えていけばよいか等を示唆していただけたらと思います。

(副委員長) 1クラスが何人かということですが、子どもは、人数が多ければ多いなりに吸収していく力があります。これからの世の中は、インターネット等顔も見たことのない人と交流もしなければならぬ時代になってくると思います。その時のベースは、人と人とのつながりがしっかり身に付いていることであり、それは小さい頃から必要です。

(委員長) 次回、1クラスの人数がどれくらいがいいのかという議論をしたいと思いますので、その時に、公立の人数が少ないところでのメリット、デメリット、特にメリットはどういうところにあるのか、というところについては、発言をお願いしたいと思います。

基本的には、この少子化の中で、公私立に関わらず、どれくらいのクラス、人数でという基準だけは、みんなで共通認識を持っていきたいと思います。

(委員) ある区の名古屋市立幼稚園の場合は、3歳児は20人まで、4、5歳児は30人までというかたちで運営していると聞きました。メリット、デメリットに関しては、次回までに聞いておきます。

(副委員長) 私立と公立が競争ではなく共存するためには、公立は何が出来て、私立は何が出来るとかもこの場で検討していただけたらいいのではないかと思います。

(委員) 今、地域とのかかわりの話が出ましたが、私の地域では、老人会の皆さんと一緒にもちつきをやったり、サツマイモと一緒に育て芋の成長を学んだりもしています。学童の登下校の関係でパトロールをしておりますが、子どもたちはあいさつが非常にうまく出来るようになって喜んでおります。また、地域には健康推進委員さんという方がいらっしゃり、幼稚園を会場にして、歯の大事さ等いろいろな教室を開いたりして、小さいうちの人間形成に関する取り組みをしております。

(副委員長) このように地域の方々を活用することは、活用された方もうれしく、子どもがたまらなくいい顔をします。みんなで知恵を出し合い、桑名の子は桑名で育てていくことが大切だと思います。

(委員) 理念のところですが、前回の会で、公立は保育所、私立は保育園と呼んでいるとお聞きしましたが、(1) 桑名市のめざす就学前教育の1行目には、保育所(園)ではなく、保育園としか書いてありませんが、ここには公立保育所も含まれるのですか。

(再編推進室主幹) この表記については、統一がされてなかったと思います。内容的には、(1)の保育園には、公立も私立も含まれていると把握しております。

(副委員長) 保育所保育指針とは言いますが、保育園保育指針とは言いません。通称は保育園で保育所保育指針を基に保育をしています。

(再編推進室主幹) 一度きちんと整理をする必要があると思っております。

(委員) 多度町の場合、合併前は公立も私立も多度保育園で同じ名前でした。社会福祉法人とつくか、町立とつくかの違いでした。合併して桑名市内の公立が保育所と呼んでいたのも、町立多度保育園が多度保育所となった経緯があります。

(教育部長) この点は、子ども目線でいきたいと思っておりますがいかがですか。

(委員) この話とは違いますがいいですか。

前回、保護者の方が、もう少し長い時間預かってもらえたら公立幼稚園に行きたい、と言われるということをお聞きしました。地域には生き生きとしたおとしよりがたくさんいらっしゃいます。公立幼稚園でも預かり保育を実施し、このお年寄りの方々にボランティアとして入っていただくのもよいかと思います。

(副委員長) お年寄りに入っていただくためには、子どもと接する時の心得等の講習会を開くなど段取りが必要ですね。

(委員) 例えば、退職をした先生もたくさんいらっしゃいますので、そのような方が携わっていただくということもどうでしょうか。

(副委員長) 退職教員も地域の方として、公立に限らず私立も含めて関わっていただくといいですね。

(委員長) 一人ひとりの根っこを育てるために、地域の方々を活用するということは絶対に必要であると思います。

この桑名市就学前教育の理念についてですが、よろしいでしょうか。

(委員) この理念の作成はどのような形でなされたのですか。

(教育部長) 福祉と教育委員会とで練って作成した案を、H19年答申の検討委員会の場に提案をし、検討していただきました。

(委員) この理念にある「就学前教育」というのは、0歳から5歳までの子どもたちの教育というところですか。0歳から就学前教育というのは、福祉の自分には違和感がありますが。

(教育部長) 就学前教育は文部科学省と厚生労働省からもいわれていることで、0歳から小学校入学までということで作成してあります。

(副委員長) 0歳で生まれてきた子どもを、教育委員会と福祉部がどのように見守っていくかがこの図であると思います。教育は英語でエデュケーションですが、意味は、この子なりに持っている力を引き出すということなので、0歳から教育という表現でよいのではないかと私は思います。

(教育部長) 0歳でも養育の部分と教育の部分があり、大きくなるにつれて教育の割合が大きくなっていくのかと思います。そのため、カリキュラムも0歳から就学前教育として作成してあります。

(副委員長) おなかに命が宿った時から、お母さんは、赤ちゃんが穏やかに過ごせるような配慮をすることを考えると、就学前教育はもっと幅広いものとなると思います。

(委員) 桑名市は、就学前教育ということで0歳から小学校に上がるまでの子どもたちをこのような理念で育てていくということですね。

もう1点、私立は園独自の園則があり理念をもってやっています。この市の理念を私立がどのように受け止めればいいのかと考えます。

(副委員長) 市は大枠を作らなければならない立場です。公立でも私立でも、各園個性があり理念がありますので、あくまでもこれは大枠だと私は思います

(教育部長) もともと市の総合計画の「住みよさ日本一」、子どもを産み育てやすい市にしたいということで進めてきたと思います。市の共通カリキュラムはコアカリキュラムという言い方をしており、私立さんの建学の精神を尊重しつつ、大きな柱立てだけはしたいということで進めてきました。

(委員長) 公立を中心に考えると、イメージ図の黄色の部分が全部同じ大きさになり、建学の精神に則っている私立の場合には、ある部分が大きくなったりします。しかし、5つというのは、桑名の就学前の教育には欠かせない最低の基準で、これは、公立・私立を問わず、桑名が住みよさ日本一をめざすためには最低限クリアしてもらいたいという表現であると思いました。このような理解でよろしいでしょうか。

今日は、今回の検討委員会の出発点として、就学前教育理念については共有をしていただいたということでよろしいでしょうか。

(委員) 遊びを通してということで、遊びという言葉が使っていますが、この中には、子どもが遊びと感ずれば、いかなるものも遊びと理解してよいでしょうか。

(副委員長) 遊びの概念は、様々な人が様々なことを言っていますが、その中で共通することは、子どもが全て忘れてでも夢中になる瞬間が遊びだということではないかと私は思っています。

(委員) 分かりました。

(委員長) それでは、今日の議論は、桑名市の就学前教育のイメージの共有というところまでとさせていただきますと思います。

次回ですが、現状把握と「みんなつながりあって一人ひとりの根っこを育てる」ような就学前教育をするためには、大体どれくらいのクラスの規模が必要で、1クラスの人数はどれくらいが望ましいのかということを議論していきたいと思っています。

それでは、最後にその他を事務局よりお願いします。

(室長) 次回は12月3日(金)午後3時より、市役所北館2階 会議室でお願いいたします。今後の会議は、第4回を1月28日(金) 第5回を2月24日(木)で調整をさせていただきますと思います。

(委員長) 以上ですが、よろしいでしょうか。

(委員) 資料ですが、10年・20年後を見据えた再編だと思imasるので、人口推計を10年・20年後あたりまでお願いしたいと思imas。

それから、先程、地域を代表されている委員の方々の発言を大変羨ましく聞いておりました。私立の思いとしましては、地域の方にも是非私立をご理解いただきたいと思imasるので、私立も地域に開放して、気軽にきていただく幼稚園にしていかなければならないと思っております。地域の方には、公立だけでなく、私立も含めて桑名市の幼稚園、桑名市の子どもということで、ご理解いただければと思imas。

(委員) 根っこの話をしているのであれば、なぜ、事項書3に、公立幼稚園における学級の規模・・・となっているのですか。やはり公立幼稚園の保護のための会なのかと思っております。

(委員) 園児数は、国の基準で決まっているのに、なぜそれを討議するのかが分かりません。

(委員長) 4、5年後には、各地域の教育体制をどう作るのか、適正規模を各地域で決めてもいいという形になっていくということも見据えて、少し議論をしていく必要があると思imasるので、お願いしたいと思imas。

(教育部長) 公立幼稚園を見ていくと、その背景に私立さんのこともありますので、それを切り口にしていただくような形で考えていただいてはどうかと思っております。

(副委員長) 最後に、公立幼稚園、私立幼稚園、公立保育所、私立保育園、それぞれの先生方が、全体でなく、ご自分の園をPRしていただきたいと思imas。そうすることから、公立のカラーと私立のカラーが歴然と出てくると思われます。

(委員) 順番に現場を見ていただいてはどうでしょうか。子どもたちを見ていただくのが一番だと思imas。

(副委員長) お互いをよく知る。相手に自分たちをPRすることが必要だと思imas。それを共通認識しないと、うやむやな言葉で議論していてもいけない

と思います。

(委員) 私学というのは、自分の園の考えをきちっと持ってやっておりますから。公立と私立では歴然と差が出てきます。

(副委員長) 公立も持っているのですが、それをお互いにこの場で共通認識するというのがこの議論を深めていくのに必要かと思います。

(委員長) また、この件も考えていただくということで、今回は、終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

第2回 桑名市就学前施設再編検討委員会終了 17時15分終了

以上会議の顛末を録し、ここに署名する。

委員長